

平成28年度 榛生昇陽高等学校 学校評価総括表

教育目標	「自己を磨き、生き方を学び、未来に挑戦する」生徒を育成する		総合評価
運営方針	個々の生徒の能力や個性を見極めた上でやる気を起こさせ、一人ひとりの生徒の力を最大限に伸ばす(生徒の変容)		
	生徒に「自信」と「感動」を与える教育内容や指導法をたゆみなく探究する(指導力向上)		
	生徒理解のため生徒をよく観察して個々の生徒の長所を見つける(生徒への愛情)		
	各分掌の目標を全職員が共有し全職員が丸となる。数量的に検証しながらPDCAサイクルを活用する(組織強化)		
保護者・地域等の理解と応援を得られるよう教育活動の理解と広報に努め、学校関係者とのコミュニケーションとコラボレートに努める(学校関係者連携)			
○平成27年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
基本的な生活習慣が身につけているのかの評価について、生徒の自己評価と学校全体に対する評価とに少しギャップが見受けられるので、それを解消すること。基礎学力の充実について「学び直し」や家庭学習を充実させる取り組み継続する必要がある。28年度には、個に応じた学力補充に積極的に取り組み学力の充実を目指す。教師力アップのための教科内での研修を深めていく。また、地域との交流を更に深め、広報活動を積極的に行っていきたい。	基本的な生活習慣と正しい判断力を身に付けさせ、自己統制力を養う(誠実・健康)	ルールを守る心を育て、礼儀やマナーを身に付けさせる。自己の体力・健康を増進を図り、安全・時間を管理できる力を養う。目標を立て最後まであきらめないで努力を続ける力を養う。	B
	基礎基本を定着させ、着実な学力向上を目指す(学力)	生徒の能力・理解度を把握した上で効果的な教材や授業法を工夫する。進路学習や補充学習も含め個に応じた指導に積極的に取り組む。家庭学習の充実を図る。	
	自己理解に基づき、自己表現への積極的な態度を育成する(キャリア)	キャリア教育の推進を図る。各種検定の受検および資格取得の推進を図る。進学・就職の実力養成講座の充実を図る。	
	命を大切にし、他者への思いやりの気持ちを持った豊かな心を育む(豊かな心)	介護実習、教育施設実習の充実を図る。日常生活の中で、人権意識や人権感覚を高める工夫を図る。心に響く人権学習を行う。	
	自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる(自主・自立)	地域との交流を積極的に推進する。生徒会・各種委員会活動を活性化。部活動を意欲的積極的に参加させ成功体験を重ねさせる。	

※評価基準:目標達成→A、目標値の80%達成→B、目標値の60%達成→C、それ以下→Dとする。但し、項目によっては個別に、評価指標欄にて別途基準の作成可。

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	自己評価	中間期(9月)進捗状況	自己評価	年度末(3月)成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策	
総務部	広報活動の充実と団体運営の活性化を図る	生徒の自信と愛校心を高めるため、地域社会の本校への関心を高めるための広報の充実	写真部の活動ともリンクさせHPを定期的に更新する。またマスメディアで取り上げられるよう引き続き取材依頼も積極的に行うことで、地域社会の本校への関心を高める。 生徒の活動を幅広く評価できるように、懸垂幕、フォトニュース、校内掲示板等でフィードバックする。	行事ごと、活動分野ごとに各媒体(HP・広報板・懸垂幕)をトータルして50回以上更新する。	A	HPは学校・学年、学科の行事ごとに、また、クラブ紹介の内容も更新した。報道機関への取材依頼も毎回行っている。	A	HPは行事ごとに更新、追加した。写真部の協力も得て校内外の広報板にも生徒の活動の様子を掲示した。今回、これまでの生徒たちの活動の積み重ねが高く評価された受賞には「地域と共にある学校づくり」の本校の取組についてマスコミへの取材依頼や広報活動を続けてきたことも少なからず寄与できたと思う。	福祉科と人間探求コースの教育内容やボランティア活動をさらにクローズアップして学校の魅力として広報に努める。学校紹介資料の内容については他分掌と連携しながら検討し内容をさらに深める。	学校評価委員A 学校においては、生徒1人1人が目標をもった生活を送ること、教師はその個々の資質を伸ばすために日頃の関わり方が大切となる。さらに、地域との連携を今以上に強めながら子どもたちを育てる包括的な教育環境をつくっていく必要がある。	
		学校紹介資料の内容について関連の科、コース、他分掌と連携しながら検討、福祉科、人間探求コース、部活動など学校の魅力を紹介し中学校への広報に努める。	学校紹介パンフレット作成にむけて、広報内容の検討を行う。	中学生の高校見学を機会に学校紹介に関する資料やデータは最新の情報を掲載し、懸垂幕の掲示内容とともにリニューアルした。また、夏と秋の2回、中学校(104校)に学校紹介資料を送付し、広報に努めた。	A	中学生の高校見学を機会に学校紹介に関する資料やデータは最新の情報を掲載し、懸垂幕の掲示内容とともにリニューアルした。また、夏と秋の2回、中学校(104校)に学校紹介資料を送付し、広報に努めた。	B	中学校への資料送付の機会をつかみ、新聞記事抜粋の資料(榛生新聞)も揃えるなど広報に努めた。中学3年生の進路選択に役立つ情報を提供したい。	B	担当教員を軸に円滑に推進できた。育友会(38名)は行事ごとに熱心に活動していただいている。同窓会は会長を中心に各期の幹事の充足率を高め幹事会にも新しい方が出席されるようになった。両会の課題は総会の出席者を増加させる手立てについてである。	学校評価委員B このたび、「地域学校協働活動」推進校として文部科学大臣賞を受賞されたことは、介護施設において生徒さんの実習を受け入れる者として本当にうれしいことです。今後とも学校と社会との強い連携の中で生徒さんたちがますます成長され活躍されることをお祈りします。
		育友会・同窓会・榛生会等の団体事務局運営の円滑化	育友会の根幹である役員数の維持に努め、学校と育友会の連携を密にする。同窓会では幹事の充足を高め、充実と発展に努める。両総会に多くの出席者がえられるよう各組織の活動を支援する。	育友会新役員を10名の方に依頼し、総会内容を工夫することによって、両総会とも100名の出席者を目指す。	B	育友会新役員は9名の方に依頼できたが、クラス数減にともなって役員数を維持することは難しくなってきた。総会出席は育友会が68名、同窓会91名であった。	B		B	同窓会総会の案内について、多くの人の目にふれる方法を考える。会員の方々に育友会活動を紹介し会員相互のコミュニケーションを広げる。	
教務部	学習意欲を引き出し、学力の向上を図る	教育課程の実践	国・数・英の「基礎」・「発展」を実施する中で評価を重ね、一人ひとりの生徒の力を伸ばす教材を探究し実践する。	国・数・英の「基礎」・「発展」を実施する中で、一人ひとりの生徒の力を伸ばす教材を探究し実践していく取り組みを、教科としてできたことと自己評価する教師が80%以上を目指す。	B	国・数・英の「基礎」・「発展」を実施する中で、一人ひとりの生徒の力を伸ばす教材を探究し実践していく取り組みを、教科としてできたことと自己評価する教師は72.1%であった。	C	国・数・英の「基礎」・「発展」を実施する中で、一人ひとりの生徒の力を伸ばす教材を探究し実践していく取り組みを、教科としてできたことと自己評価する教師は55.6%であった。目標が達成できなかった上に、1学期よりも数値がかなり下がった。	実践から4年目を迎えて(数学は2年目)、昨年度までは取組の成果が徐々に表れつつあったが、今年度は極端に数値が下がったように思われる。異動等による教師の入れ替わりがあったとしても、さらにこれまでの取組を検証し、より効果的な教材・手法を教科で共有し、さらに実効性のある取り組みを進める必要がある。		
		授業の工夫と基礎学力の向上	「学び直し」や「授業の工夫」によって、一人ひとりの生徒の力を最大限に伸ばす取組の積み上げを、国・数・英以外の教科も含め全校体制で進める。	一人ひとりの生徒の力を伸ばすために、国・数・英以外も含めた教科で、「学び直し」や「授業の工夫」に取り組んだことと自己評価する教師が80%以上を目指す。	C	一人ひとりの生徒の力を伸ばすために、国・数・英以外も含めた教科で、「学び直し」や「授業の工夫」に取り組んだことと自己評価する教師が50.0%であった。	B	一人ひとりの生徒の力を伸ばすために、国・数・英以外も含めた教科で、「学び直し」や「授業の工夫」に取り組んだことと自己評価する教師が74.4%であった。1学期よりも数値が上がったが、目標を達成するまでには至らなかった。(昨年度は達成していた。)	「学び直し」や「授業の工夫」の必要性についての認識は深まっていると思うが、上記と同様に、異動等による教師の入れ替わりがあったとしても、先進校の取組や実践事例も参考にしながら本校の取組をより一層深化させる必要がある。なお、その際には、『アクティブラーニング』の取組や評価基準(観点別)の作成や評価方法等の工夫改善が重要となる。	学校評価委員C 息子が大変お世話になりました。3年間学校生活を楽しみ、部活動に傾注できた。その成長する姿から、先生方がいかに関わっていただいたか、また、生徒に親身になって考えていただいたのがよくわかった。感謝申し上げます。	
		教科指導力の向上	授業交流期間(6月、11月)を中心に研究授業を積極的に実施する。	各教科、年間半数以上の教師が研究授業を実施することを目指す。	A	6月の授業交流期間を中心に研究授業(公開授業)を行った教師が27名(延べ)であった。(授業を受け持っている教師は43名)	A	11月の授業交流期間を中心に研究授業(公開授業)を行った教師が24名(延べ)であった。(授業を受け持っている教師は43名)6月と併せると年間51名(延べ)の教師が研究授業(公開授業)を行った。昨年度より6名(延べ)多く研究授業(公開授業)を行った。上記の2点に比べて、成果を残したと思われる。	A	長期の授業交流期間(約2ヶ月近い)を中心に研究授業(公開授業)を行ったが、単に数値(行った教師の数)を上げることだけではなく、上記にも示した、『アクティブラーニング』の取組や評価基準(観点別)の作成や評価方法をより意識した研究授業(公開授業)を目指す必要がある。	
生徒指導部	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上をはかる	ルールを守り、礼儀やマナーを身につけさせる	全校集会、学年集会、HR活動を通して規範意識の向上をはかる。	各学期に1～2回の全校集会を開催。また、警察等関係諸機関による外部講師を招きインターネットラブルほか高校生の抱える諸問題について考えさせる機会を今年度中の適切な時期に開催する	A	集会やHR活動を通して、規範意識は確実に向上しているものと思われる。1学期にあった、窓からガムを捨てる行為もなくなり、悪ふざけによるトラブルも激減した。集会後入室遅れも激減した。	B	各学期に1～2回の全校集会は実施できなかったが、1年生に関しては集会・HRでの指導の効果がはっきりと表れていた。ただ、他の学年では効果が表れていないと言いたい。学年での格差やクラス間での格差をどのように埋めていくかが、今後の課題と思われる。問題行動の数は昨年度と比べて激減しており、学校全体で見れば規範意識の向上が見られる。全体の雰囲気として、まだまだ積みが見られるので、集会でのけじめ・服装や化粧の指導方法の改善が必要である。職員全体で指導方針を確認する研修なども来年度は実施したい。	1年生が入学して緊張感のある4月初めに、2・3年生に対しても引き締めを図ることが重要である。集会等で、各々の生徒の自覚を促し、緊張感を持続できるように普段から厳しさを打ち出していく必要がある。そのためには、研修などを通して、職員全体で指導方針の統一を図る必要がある。	学校評価委員D 冊子「生徒の軌跡」を見るだけで、先生方の指導の積み上げの成果が理解できる。生徒の活動をいかに、どれだけ発信するか、また、そのことが生徒の意識を高揚させ誇りをもたせることができる。どれだけ生徒を支え、係わることができるかが成果としてあらわれてくる。「個に応じた学力補充に積極的に取り組む」具体的方策として、国語、英語、数学での基礎、発展クラスの分けや授業の中において個々の生徒の力量を見極め、個に応じて教材の工夫や放課後補習などに取り組んでいる。さらにすすめてもらいたい。	
		時間を守り、安全、安心を確保する	制服をきちんと着こなすことができるよう、指導方法を工夫する。		B	男子では制服をきちんと着こなす生徒が増えているが、女子でジャンパースカートを着用しない者がおり、化粧・カラコンも指導が徹底できていない。今後も指導が必要である。	A	制服の着こなし・化粧などについては、さらなる指導が必要であるが、頭髪に関してはほぼ全ての生徒・保護者が学校の方針を理解・協力し、学校の指導にも素直に従っている。保護者とのトラブルもほとんどない。通学マナーに関する苦情も2学期以降はほぼなくなった。	校門指導での指導を徹底するためにも、事前の指導を積極的に行い、違反者の数を減らす必要がある。違反者が多数いる状況では全体の雰囲気も縮まらず、指導も徹底しづらくなる。		
		遅刻を減らし規律ある学校生活が送れるよう、指導を強化する。			A	遅刻指導を毎日行い、特に1年生では昨年度に比べて、遅刻を減らすことに成功している。	B	遅刻指導の方法を改善し、より効果的なやり方を模索しながら、指導を継続する。			
		生徒教師ともどもにチャイムで授業を始めチャイムで終わる習慣をつける。		毎月登下校の見守り計画を立案実施する。また、各週各クラスの週番活動を展開し校内の風紀を整えさせる	A	学年集会の後、1年生の入室遅れが激減しており、チャイムで授業を始めることは習慣になっている。	A	学年集会やHRでの指導により、入室遅れはかなり少なくなっており、授業への取り組みもよくなっている。	入室遅れの生徒に対して、きっちりと時間を取り、指導をする必要がある。		
		登下校の見守り活動を組織的に確立し、切れ目なく安全を確保する。			A	交通安全委員による下校時の生徒による見守り活動も行い、安全に対する生徒の意識も高められた。文化祭でも生活委員による巡視活動も計画している。	A	生徒による巡視活動などにより、安全やマナー向上の意識は高くなってきている。	下校時の指導を強化し、学年主任・生徒指導部長による巡視を増やす。		
		自律心を高め、自己の可能性に気づかせる	部活動、清掃活動、ボランティア活動、学校行事への取り組みを通して、自己有用感、達成感を抱かせる。	部活動生徒、生徒会役員、各種委員会の学校行事へ参画意識を高めるため地域社会に貢献できる活動を立案実施する	A	地域社会への貢献はすっかり定着し、生徒の積極的な参加が見られる。今後も継続していきたい。	A	地域への貢献だけでなく、学校への貢献を意識して行動できる生徒が増えてきた。	部活動生徒や生徒会役員の自覚を促し、先輩から後輩へ引き継がれていくように、指導を継続していく。		

人権教育部	人権意識の向上を図り、差別や偏見をなくし、共に理解し、生きようとする資質や行動力を育成する	学習内容の創造・充実や、展開の工夫	早期から計画・立案する、HR学年打ち合わせを充実する。	半月前に、指導案を作成し人権部会で協議したか、HR学年打ち合わせは、十分な時間を確保し、おさえるべきポイントを共通認識したか。	早期に計画・立案し、人権部会で協議した上で、新たな教材を作成できた。	B	人権部会での協議は、問題を残した。指導案と、各クラスのHRの報告をまとめた、「人権HR実践集録」を作成配布し、今後の資料とした。	特に2・3学期に、人権部会での指導案の協議をするためには、かなり早期に計画立案をする必要があり、日程的に難しい点があるが、工夫して取り組む。	学校評価委員E 文部科学大臣賞および奈良県教育長賞を受賞されたことは、この学校関係者としては誇らしいことであり心からお祝い申し上げます。 ①もはや、人間探究コースや福祉科の取組や多くの生徒さんの様々な地域イベントへの関わりは宇陀市にとっておおいに意義があり、なくてはならないものとなっている。②冊子「生徒の軌跡」は生徒の活躍がわかりやすく、よく理解できる。生徒さんの自信につながるものである。③生徒指導においては、遅刻者の指導に苦労されているが、継続的に工夫をして実施されたい。問題行動の件数が減少しているのは評価できる。④人権教育においては、発達障害を持つ生徒理解のための研修などいっそうすすめてほしい。⑤SSシートの取組を深化させながら、進路意識の高揚につなげてほしい。⑥体育大会での生徒の発刺と団結する姿に感動した。⑦避難訓練を実施することで器具の不具合も発見され、防災意識をさらに高めてほしい。⑧図書利用者の増加、貸出数の増加したのは、耐震移転の影響はあるが、新刊図書のPRや図書委員の活用など本離れの対策にさらに工夫をされたい。	
		人権教育の日常化、職員研修の充実	LHRや学習会に限らず、人権教育を日常的なものにするため、「教職員の実践的な力量」を高める研修を実施する。	「教職員の実践的な力量」を高める研修を実施できたか。	「生徒理解」、「LGBT」についての職員研修を実施し、理解を深めることができた。	B	学内での研修は学年前半に行い、学後半は各種研修会の案内を行った。高人数のブロック別公開授業には、多数の参加を得た。	単に、人権に関する知識を得るというのではなく、「どんな生徒を育てるのか」、「どんな教育を展開するのか」という中に、人権教育がどう位置づけられるのか。「教職員の力量」とは何なのか。根本的なことを再度提起し議論していく。		
		生徒理解の深化と、それを踏まえた教育実践の推進	SNEチームを中心として、特別支援教育を進める全校体制を充実する。	具体的な支援の仕方を提示し、実践できたか。	教職員の「特別支援教育」に対する認識が高まり、それを踏まえた教育が実践されている。	B	「特別支援教育」に対する認識や、「学び直し」や「生徒理解」の必要性についての認識は、年を追うごとに高まり、具体的な実践に結びついてきているが、さらに取り組みを進める必要がある。	具体的な実践交流を、授業の合い間などに教師間で具体的にしていけるように、教職員研修などを通してさらに認識を深め、意識向上を図る。		
		自己分析の実施	進路ノート・SSシートや面談などで、自分の状態を把握させ、将来の目標を設定させる。	毎学期進路ノートを2回利用し、自己分析させる	進路ノートは使用しなかったが、学年集会や講演会などを実施する中で、1年は「進路を知る」2年は「進学か就職か選ぶ」そして3年生は「進路を決める」という目標を確認した。	B	進路ノートは使用しなかったが、学期ごとの、進路学年集会やマナー・進学・就職講演会などを実施した。1年は「進路(自分・学校・職業)を知る」2年は「進学か就職か選ぶ(今まで知り得た知識を整理し比べて選ぶ)」そして3年生は「進路を決める(卒業までに決定する)」という目標を確認した。	講演会やセミナー、学年集会など、自分を見つめる機会や進路を考えるチャンスを増やしていきたい。1年の秋のバス大学等見学会は来年度も実施していきたい。また自分を語る活動も紙面上だけでなくクラス発表という形で実施したいと考えている。		
進路指導部	自己を深く見極めて分析し、目標を明確化させ自己実現を図らせる	進路実現の実施	自分の能力・適性・目標、保護者の願いなどを十分に考慮し、精一杯努力させ進路実現に努めさせる。	進学希望者・就職希望者とも100%の決定率を目指す	現在就職内定率は、82%である。2次試験に向けて指導している。進学者は大半が指定校入試であるためまだ結果は出ていない。	B	就職希望者は1月末現在5名である。ハローワークに引率しアドバイスをいただく予定である。また進学希望者のうち5名が一般試験に向けて学習を深めている。春夏冬の講習の中で、特に2年生の冬講座は就職や看護希望者、また英語国語とかなりの受講者があった。	就職意欲がさほど強くない者が例年学年末まで未決定のことが多い。保護者との相談も希薄であり学校現場だけではかなり厳しい部分もあるので、保護者に関心を抱いてもらうために進路NEWSや保護者会など実現していきたい。		
		検定合格の推進	検定に向け懸命に学習し、意欲的・主体的に検定に臨む姿勢を作る。	全校生徒が検定を受検し、検定合格率50%以上を目指す	3年生は全員英検または漢検を受検した。2年生の英検受験者は5名1年生は皆無であった。秋の検定に向けて指導していきたい。合格率は英検が13%であった。2年生の漢字検定は2月実施である。	C	3年生は全員、英検または漢検を受検したが、合格率はかなり低かった。2年生はまもなく漢字検定全員受験をする。授業の中でも指導をいただいている。ただ歴史とした意欲の差があり難しい面がある。	教科の協力を得て、基礎学力を身につけさせたい。また生徒が学力的にも意欲的に取り組める検定を探したい。		
		体力の向上	体力は健康に直結することを認識させ、生涯を通じてスポーツに関わりを持つよう指導する。	新体力テストの結果を県平均に近づける。(目標偏差値48以上)	各種目にばらつきはあったが、全体には目標まではもう少しのところを推移している。今後は、個々の意識の拡大を中心に進めていきたい。	B	体力を伸ばすというより、どれだけ自身の健康に配慮しているかをすすめる。それぞれの指導の中でより高い目標を捉えることがより健康に近づくと考えられる。	意識の高揚や部活動の活性化だけでは、体力を伸ばすことはできない。体力を総合的に捉える機会を増やすことが重要である。		
保健体育部	生涯にわたり心身ともに健康でたくましく、活力に満ちた生活を営む基礎的・基本的な態度を育成する。同時に、学校安全・環境衛生の維持、充実を図る	生徒の自己管理能力の向上	健康管理の啓発に努め、個人の管理能力を高めさせる。	保健室利用者、前年度10%減。	健康管理は心身ともに関わる問題であり、利用者の状況をみてみると内容は幅広く、なかなか減少しないのが現状である。	C	保健室の利用者は、疾病のみならず「よろず相談所」のようになっている。カウンセリング的要素も高まりつつある中、増加をたどるのは必然である。	保健室の利用にあたり、より効率のよい方法を模索してきたが、なかなか功を奏しない。生徒の、心身の状況・疾病傾向を含め十分検証を進めていきたい。		
		体育的行事・各種委員会の充実	各行事・各委員会の活性化に努め、時代のニーズにあった企画、運営につとめる。	体育大会(生徒満足度85%以上)マラソン大会(完走率98%以上)の活性化 時代のニーズに合った学校保健委員会・食育委員会の計画・立案する。	体育大会は、生徒の満足度が高く充実した行事になった。保健委員会も少しずつ機能し始めている。	A	体育大会は、すべての生徒が満足できるようにさらに種目設定・競技運営をすすめていきたい。マラソン大会においては、それまでの体力作りとしては十分効果はあるが、天候に左右されやすいので十分検証が必要である。	体育大会においては、生徒に種目のアンケートをとり、安全性・人気度を考えながら進めている。マンネリ化にならないよう努めたい。マラソン大会では、体力と健康の相関性を今後も指導していきたい。		
		学校の環境美化を通して、生徒の環境保全に対する意識を高める	清掃活動の徹底を図る。そのために環境整備委員と共に清掃用具の点検、美しい環境を作り上げる活動の実践を図る。	清掃用具の点検、清掃状況の確認点検を環境整備委員と共に、「おおむねよい状況である。」と判断できる成果を80%の活動場所で達成する。環境整備委員によるポスター作成による啓発活動を行う。	おおむねよい状況であると判断できる成果が80%以上の場所で達成。	A	清掃用具等の破損も少なく一応の成果はあった。	意欲の低い生徒への啓発が必要である。		
環境整備部	学校の環境美化を通して、生徒の環境保全に対する意識を高める	委員会の参加率を100%にするため、活動内容等を詳しく提示する。	委員会の参加率を100%にするため、活動内容等を詳しく提示する。	委員会開催の日時や内容を早い時期に明示でき、特別な事情以外は参加率は100%である。	B	ポスターを各学年の階に掲示。	B	委員会としては前向きな成果がでている。	生徒全体が前向きになれるような啓発活動をすすめた。	
		施設・設備の安全の徹底	施設・設備の安全点検および保守管理を行う。特に、本館耐震工事中の安全確保を行う。また、扇風機等の施設設備の適切な使用を行う。	施設設備の正しい使用方法の啓発、清掃時間の取り組み観点を明らかにし、活動時間を有意義にする。	活動に必要な用具等の整備を随時実施できている	B	活動に必要な用具等の整備を随時実施できている	B	前向きな発想はあってもリーダーとしての成果はでていない。(委員会)	委員会がリーダーとなれるようにしたい。
		目標や計画を明確にし、連携・協力をすすめる、校務の円滑化を図る	地震・火事等からの安全の確保	火災報知器の正しい使用方法の徹底、消火器、消火栓の正しい使用方法の確認、実践ができるようにする。避難経路の確認と避難時対応マニュアルの徹底を行い、安全や防災に関する意識付けを行う。	夏期休業中に職員の防火訓練にかかわる研修を持ち、火災報知器の使用方法、消火栓の使用方法を研修する。対応マニュアルの理解と経営計画にある非常時の組織分担の役割との関わりを研修する。	職員防災訓練に関し、研修と訓練を実施。避難訓練の実施後に火災報知器・緊急放送設備の使用方法もわかりやすいようにして通知。	A	職員防災訓練に関し、研修と訓練を実施。避難訓練の実施後に火災報知器・緊急放送設備の使用方法もわかりやすいようにして通知。	A	指示を聞いて対応できるようにし、生徒の不注意を減少させる。
文化図書部	読書活動や文化行事、委員会活動の活性化	図書館利用者数の増加	朝の読書や学級文庫などで読書をするきっかけを作り、BOOK LANDやポスター等で新刊図書の紹介をする等、読書の推進に努める。	図書館の貸出冊数、および入館者数を昨年度の1割増とする。	上半期において図書貸出冊数1,478冊(昨年度比44%増)、入館者数3,687人(37%増)と昨年度より大幅に上回った。原因は図書室の本館への移転が考えられる。	A	12月末までの図書貸出冊数は2,229冊(昨年度比31%増)、入館者数は4,559人(昨年度比17%増)と近年最高であった。この増加は前期の図書館の本館への移転が大きな要因となっている。今後読書の運営においても、立地条件の悪さを克服すべく工夫に努めたい。	BOOKLANDやポスターで新刊図書の紹介をした日には必ず生徒が図書館を訪れてくれる。単に配布や掲示だけではなく、各クラスで、先生方や文化図書委員を通して図書館の利用を呼びかけてもらえるように働きかける。また、視聴コーナーの利用も増えるように、DVD等の充実を図る。	今回は、6名の学校評価委員の方々より、貴重な評価、助言(批評)をいただきました。これを次年度の改善点として、積極的に取り組んで参ります。	
		委員会活動の活性化と充実	文化図書委員としての自覚を持たせ、責任を持って仕事を遂行させる。	課題提出率を9割以上とする、図書当番や行事への参加率を9割以上とする。	委員の課題提出率は8割程度、読書に親しむ会への参加率は9割以上とする。	委員の課題提出率は8割程度、読書に親しむ会への参加率は9割以上とする。	B	読書感想画等の提出率は約9割、6月と11月に実施した読書に親しむ会の参加率は約8割、図書当番の責務を遂行したものは約8割であった。読書に親しむ会においては、一般参加者数は多くなかったものの担当委員は非常に熱心に取り組んでくれた。	文化図書委員としての自覚のない生徒が毎年数人いるので、最初の各種委員会の際に、委員の仕事について周知徹底させ、委員としての自覚を強く持たせる。行事については、生徒の意見ももっと取り入れ生徒主導型で実施できる取り組みやすいものを検討する。	
		校内掲示板の有効活用	校内掲示板(昇降口前)に図書・文化行事・文化関係のポスターや作品等を紹介し、文化活動への意識の向上を図る。	校内掲示板(昇降口前)の内容を1ヶ月に1回更新する。	図書関係の掲示物はほぼ1ヶ月に1回更新できたが、文化部系作品等の紹介・展示にまでは至らなかった。	B	図書関係の掲示物はほぼ1ヶ月に1回更新できた。各クラス別図書貸出冊数の公開や新刊図書紹介は、生徒の読書意欲を喚起した。文化部関係の作品等の紹介・展示については実施できなかった。	文化部や書道・美術の授業での作品の紹介や展示に関しては、場所等の問題もあるが、顧問の先生との連携を図り、計画的に進めていきたい。		